中堅教諭等資質向上研修
（教諭）

年間計画

目 次 （年間計画）

中堅教諭等資質向上研修の目的……43
校内指導体制……44
研修内容 ……45
4月
中堅教諭等資質向上研修を受講することを確認する ……46
中堅教諭等資質向上研修についての事前調査に回答する……46
研究授業における講師派遣の申請をする(任意) ……46
4月～5月
第Ⅰ回教育センター研修 ……47
中堅研チームづくり ……47
5月
チーム、管理職等からの指導・助言を得ながら、
「中堅教諭等資質向上研修計画書」を作成する ……48
「中堅教諭等資質向上研修計画書」を教育センターに提出する ……48
5月～2月
学校を支える OJT の実施 ……49
メンタルヘルス研修……49
異校種体験研修 2日 ……49
5月～6月
「課題研究構想メモ」を作成する……50
研究構想 校内発表……50
「課題研究構想メモ」を教育センターに提出する……50
5月～8月
「学習指導案作成」「学習指導案審議」「研究授業」「研究協議」を行う（1回目） ……51
6月～8月
第Ⅱ回教育センター研修……51
2回目の研究授業に向けて、教材研究を行う ……52
研究の様子を説明できるものを教育センターに提出する……52
第Ⅲ回教育センター研修……52
9月～10月
校内中間発表用の「課題研究レポート」を作成する ……53
校内において課題研究中間発表を行う ……53
「課題研究レポート 中間発表用」を教育センターに提出する……53
第Ⅳ回教育センター研修……53
9月～1月
「学習指導案作成」「学習指導案審議」「研究授業」「研究協議」を行う（2回目） ……54
課題研究、学校を支える OJT の取組について振り返る……54
1月～2月
「課題研究レポート」を作成し、教育センターに提出する ……55
校内において課題研究成果発表を行う ……55
2月
第Ⅴ回教育センター研修……56
「中堅教諭等資質向上研修 報告書」を作成し、教育センターに提出する……56

中堅教諭等資質向上研修の目的

教員としての経験を 10 年積み重ねた今、学級・学年運営、教科等指導、生徒指導等の在り方に関して広い視野に立った力量の向上が必要です。また、学校において、主任等学校運営上重要な役割を担ったり、若手教員への助言・援助など指導的役割が期待されたりすることから、より一層職務に関する専門知識や幅広い教養を身に付けるとともに、学校運営に積極的に参加していくことができるよう企画立案、事務処理等の資質能力が必要となります。中堅教諭等資質向上研修を通して、これらの教師としての資質能力を高めていきます。

《中堅教諭等資質向上研修ではどんな力を高めるの？》

1年間の実践的研修を通して、以下の資質能力を高めることを目的として行います。

・教科等の専門的知識及び技能
・個々の能力や適性等に応じて、中堅教諭としての自覚をもって、学校運営等の重要な役割や若手教員への指導的役割を果たす上で必要な資質能力

《これらの資質能力を高めるための視点》

・児童生徒等が、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにする。

・「何を理解しているか、何ができるか」「理解していること・できることをどう使うか」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」の3つの柱にそった各教科等の目標や内容を理解し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。

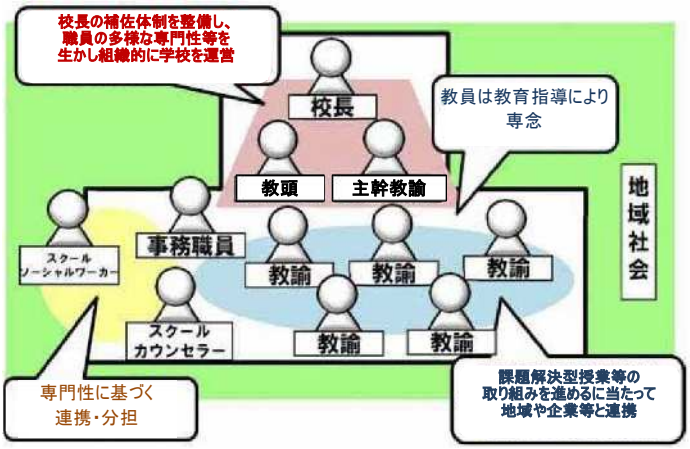
・教科等の「見方・考え方」を働かせ、教科等が目指す資質・能力を育成する。

・児童生徒等や学校、地域の実態を適切に把握し、教育内容や時間の配分、必要な人的・物的体制の確保、教育課程の実施状況に基づく改善などを通して、教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントに努める。

校内指導体制

「チームとしての学校」をつくりあげていくことが大切だと言われています。学校の教育活動を展開していくためには、教職員をはじめ多様な専門性をもつ職員が一つのチームとして、それぞれの専門性を生かして、連携・分担して行うことが求められています。

チームとしての学校とは、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、児童生徒等が必要な資質・能力を確実に身に付けることができる学校なのです。中堅教諭等資質向上研修においても、対象者一人ががんばるのではなく、チーム学校として対象者を支え、教職員が互いの資質能力を向上できるようにしていくことが、これからの学校教育を展開していく上でも大切です。



中堅教諭等資質向上研修における校内指導体制

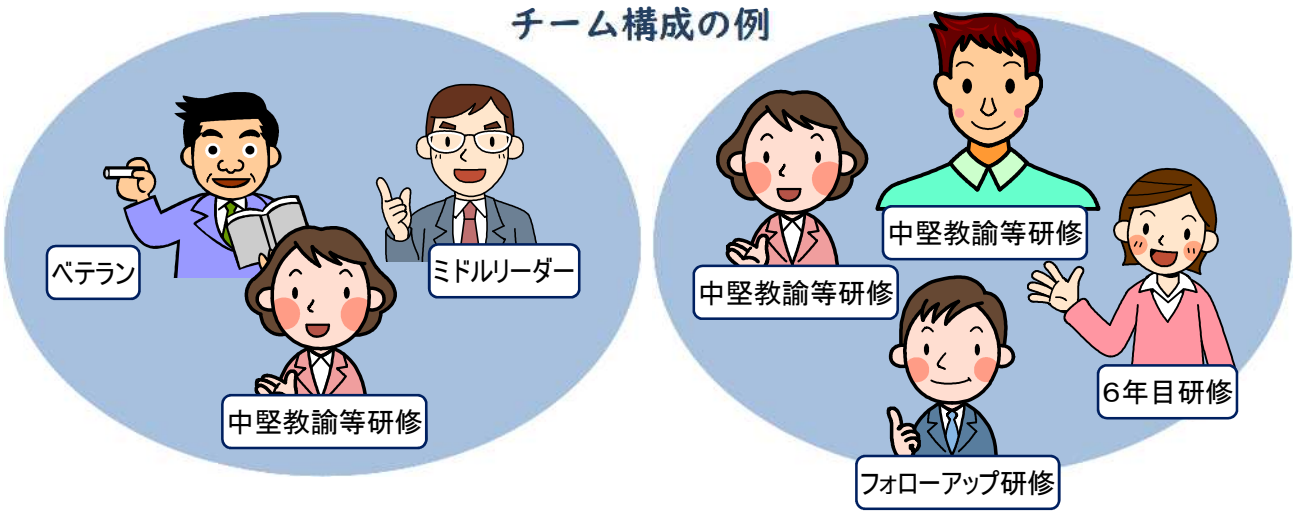
〔校長〕

・学校全体としての協力体制を確立し、適宜適切な指導及び助言を行う。

・対象者が本研修を実施するにあたり、校務分掌等について配慮する。

〔中堅研チーム〕

・1年間を通じて校内で管理職を除いた3名以上（対象者を含む）のメンバーからなるチームで、対象者を支え、お互いの資質能力の向上を図る。



研修内容

中堅研をむかえた皆さんは、教員として実践を重ねられ、その経験を生かすとともに、様々な主任等の業務にも励んでおられることと思います。管理職や先輩・同僚から教えてもらうこともたくさんありますが、中堅教諭として生徒指導・学校行事や職員研修などを推進したり、後輩の相談相手になったり、アドバイスを与えたりすることも求められています。中堅教諭としての役割を担うことを通して、自らの資質能力を育成していきましょう。

《中堅教諭等資質向上研修ではどんなことをするの？》

中堅教諭等資質向上研修は以下の2つの研修があります。

OJT 研修

・日常の教育活動を通して、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身に付ける。

☆授業づくり（通年）
- ・課題研究
- ・課題研究発表（3回）
  構想・中間・成果発表
- ・授業研究　（2回）

☆メンタルヘルス研修（1回）

☆学校を支えるOJT（通年）

Off-JT 研修

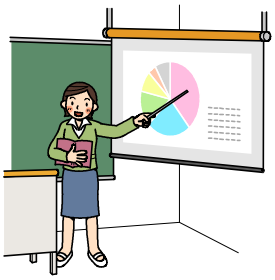
・教諭としての得意分野の開発・探究を図るとともに、児童生徒等の理解を深め、同僚と協力して学校課題に対応する資質能力を身に付ける。

・校外等の教諭等との交流を通し、互いに学び、実践的意欲や態度を養う。

☆教育センター研修［4.5 日］
- ・集合研修　（1日）
- ・オンライン研修　（3日）
- ・オンデマンド研修　（0.5 日）

☆異校種体験研修　［2　日］

※課題研究発表・・・（構想・中間・成果）　学校の実態や発表内容等に応じて、全職員、学年部、中堅研チームまたは管理職等に対して発表を行う。



4月

中堅教諭等資質向上研修を受講することを確認する

・4月1日までに、自分が中堅教諭等資質向上研修受講対象者であることを確認し、校長に報告する。

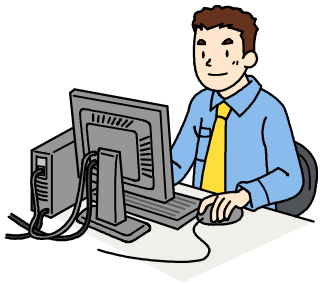
中堅教諭等資質向上研修についての事前調査に回答する　[〆切 4/11(木)]

・「研修情報システムMyPage>受講決定済研修(実施要項)>中堅教諭等資質向上研修(教諭)>リンク2」のリンク先サイトから回答する。

・年間を通して研究する教科等を選択する際は、自身の採用教科や授業の有無等を踏まえ決定する。P13の留意事項をよく読む。

・第Ⅰ回教育センター研修において、研究する教科等の第1回校内研究授業の単元(題材)構想を立てる。遅くともそれまでに、研究授業単元(題材)を決めておく。

・教諭としての資質能力自己評価については、「資質能力自己評価表」(P14,15)を記入しておき、その後アンケートに回答する。



研究授業における講師派遣の申請をする（任意）

・校内研究授業に教育センターや教育事務所等から指導主事を呼びたい場合は、小中学校は所属教育事務所長、県立は指導主事が所属する所属長宛に、管理職を通して講師派遣を申請する。

・講師派遣申請期間や申請方法は教育機関によって異なるため、4月上旬の内に確認しておく。

4月～5月

第Ⅰ回教育センター研修（オンライン）

・教育センター研修の期日、オンライン接続の方法を確認しておく。

・教育センター研修2日前までに資料をダウンロードし、授業づくりグループ、担当指導主事、第Ⅱ回以降の教育センター研修日を確認する。

・研究する教科等の学習指導要領解説、教科書、指導書、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（文部科学省・国立教育政策研究所発刊）等を熟読しておく。

・記入済みの「資質能力自己評価表」（P14,15）を準備する。

・研究する教科等の第1回校内研究授業の単元（題材）を決めておく。

中堅研チームづくり

・1年間を通じて、管理職を除いた3名以上（対象者を含む）のメンバーからなるチームで対象者を支え、お互いの資質能力の向上を図る。

〔チーム編成の例〕

(ｱ) **中堅研対象者が最年少者の場合のチーム編成**

・幅広い年齢層でチームを編成し、それぞれの得意分野や経験からのアドバイスを受ける。

(ｲ) **６年目研修やフォローアップ研修等の対象者がいる場合のチーム編成**

・お互いの研修内容を関わらせながら、研修効果を高める。

(ｳ) **(ｱ)(ｲ)の混合チーム編成**

・(ｱ)(ｲ)のよいところを取り入れ、チーム全体の資質能力の向上を図る。

(ｴ) **学校の課題解決(校内研究テーマの追究)に沿ったチーム編成**

・学校の研究テーマとリンクさせ、中堅研によって校内研究を深める。

など、学校や対象者の実態に応じたチームを編成する。

5月

チーム、管理職等からの指導・助言を得ながら、「中堅教諭等資質向上研修計画書[様式１]」を作成する

・「中堅教諭等資質向上研修　計画書　[様式1]」を作成する。

・計画書を作成するにあたり、チームメンバー、管理職等から指導・助言を受ける。

・今年度伸ばしたい点（資質能力）については、校長の願いや学校等の課題解決も視野に入れて記入する。

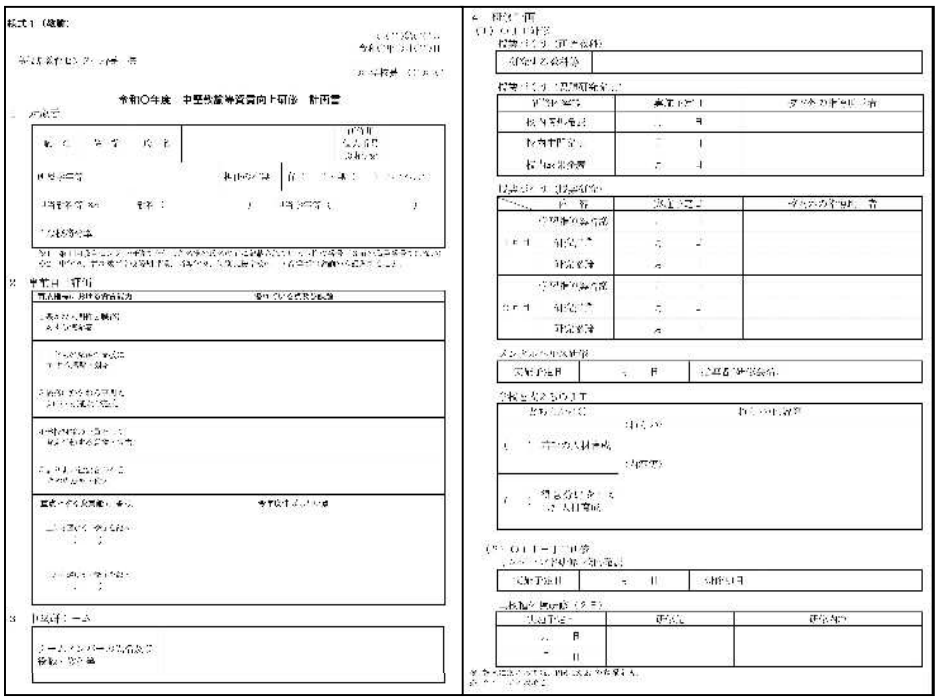
・チームメンバーに管理職を入れない。

・各研修の実施予定日が定まらない場合は「未定」と記入する。

・メンタルヘルス研修の講師は、管理職または養護教諭等（スクールカウンセラーは除く）とする。ただし、島根県、市町村、教育委員会が主催または後援する研修会参加に代えることができる。

・学校を支える OJT は、「若手教員の人材育成」「得意分野を生かした人材育成」のいずれかを選択する。

・異校種体験研修は、ねらいが達成できる研修先で行う。



「中堅教諭等資質向上研修計画書　[様式１]」を教育センターに提出する

[〆切　6/6日(木)]

・「中堅教諭等資質向上研修　計画書」を PDF ファイルに変換した後、校長に提出する。

・校長は、計画書を研修情報システム学校Page[報告書提出]から提出する。（P9,10 を参照）

5月～2月

学校を支える OJT の実施（通年）

・中堅教諭としての自覚を高め、日常の教育活動の中で、学校運営等に重要な役割を果たすための企画力や調整力を身に付け、望ましい職員の集団づくりに向けた取組を行う。

・学校教育目標や自校の課題を踏まえ、チームや管理職と相談しながら、自身の資質能力を高めるための取組を行う。

・「若手教員の人材育成」「得意分野を生かした人材育成」のいずれかを取り組む。

（若手教員の人材育成の例）
・初任者や6年目研修受講者等に授業を公開したり、指導案や授業を見てアドバイスをしたり、日頃から相談にのったりすることで、若手教員の意欲と資質能力を伸ばす。

（得意分野を生かした人材育成の例）
・教育 ICT を活用した授業を公開したり、有効な使い方についての研修会を開いたりして、校内教職員の情報活用能力や ICT 機器活用能力を伸ばす。

メンタルヘルス研修（２月中旬までに）

・心身の健康の保持増進を図るために、ストレスに対処する考え方や行動を身に付ける。

・管理職又は養護教諭等（ただし、SCは除く）による研修を受講する。
※島根県、島根県教育委員会、市町村又は市町村教育委員会が主催又は後援する研修に参加することで代えてもよい。なお、旅費が発生する場合は、市町村立学校は「指定旅費」、県立学校は「教職員研修事業費」で対応する。

・この研修は、2月中旬までに行う。

異校種体験研修　２日（２月中旬までに）

・授業への体験的参加などを通して、系統性や発達の段階を踏まえた授業の在り方や異校種間の連携について理解し、自らの教育実践を振り返るとともに指導力の向上を図ることができるよう、研修先の担当者とよく相談して研修計画を立てる。

・研修依頼書[参考様式]を研修先の所属長に提出する。

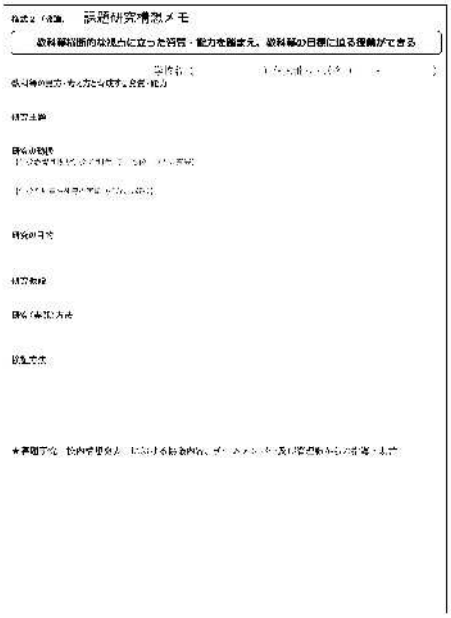
・研修までに、研修先と十分な協議・打ち合わせや準備を行う。

5月～6月

「課題研究構想メモ[様式２]」を作成する

・第Ⅰ回教育センター研修で説明された「課題研究の進め方」をもとに、「課題研究構想メモ」を作成する。

・課題研究構想メモを作成するにあたり、チームメンバー、管理職等から指導・助言を受ける。



研究構想　校内発表

・自分自身が取り組む課題研究の見通しをもつため、また、1年間にわたりどのような課題研究を行うのかを校内の教職員に理解してもらうために、研究構想を職員会議等で説明する。

・説明する対象は、全教職員、学年部、教科部など、学校の実態に応じて決める。その際、少なくとも一人の管理職の出席があるようにする。

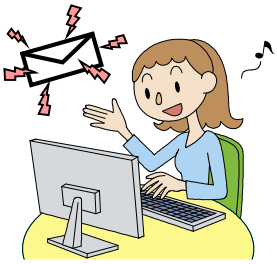
・研究構想発表は遅くとも教育センターに提出する前日までに行う。

「課題研究構想メモ[様式２]」を教育センターに提出する

[〆切　6/13日(木)]

・研究構想発表で得た意見・アドバイス等をもとに「課題研究構想メモ」を修正した後に、PDFファイルに変換し、教育センターに提出する。

・同グループのメンバーの「課題研究構想メモ」をダウンロードし、自身の研究の参考にする。



5月～8 月

チームメンバー、管理職等の指導・助言のもと、
「学習指導案作成」 「学習指導案審議」 「研究授業」 「研究協議」
を行う(1 回目)

・チームメンバー、管理職等の指導・助言のもと、課題研究に基づく学習指導案（密案）を作成する。

・チームメンバーを含む複数教員で、学習指導案審議を行う。

・学習指導案審議をもとに学習指導案を修正する。

・チームメンバー、管理職等を含む複数教員で、研究授業・研究協議を行う。

・学習指導案審議、研究授業、研究協議等の記録を残し、今後の課題研究に生かす。

6月～8 月

第Ⅱ回教育センター研修（オンデマンド）

・オンデマンド研修は自校等で行うため、半日程度の研修時間を設定する。その際、研修時間に校務（授業等）を割り当てない。
（校内においては、出張と同様な対応をしてもらう）

・研修情報システムMyPage[研修動画]からオンデマンド動画を視聴する。

・オンデマンド動画については、年度内の校内研修で実施（計画も含む）されたものは、必ずしも視聴する必要はない。（「教育の情報化とICT活用実践紹介」は必修）

・視聴した研修から1つを選び、その研修内容について校内において発表を行う。

・説明する対象は、全教職員、学年部、教科部など、学校の実態に応じて決める。その際、少なくとも一人の管理職は出席する。

・他の中堅教諭等資質向上研修または6年目研修受講者がいる場合は、協力して一つの発表をしてもよいし、それぞれが別々の発表をしてもよい。

・校内研修会で用いた資料（PDF ファイル）を、発表後1週間以内に、教育センターに提出する。

・詳細は、第Ⅱ回教育センター研修実施要項を参照する。 [最終〆切 9月 19 日(木)]

6月～8月

２回目の研究授業に向けて、教材研究を行う

・普段の授業（課題研究実践）や第１回校内研究授業、教育センター研修で得たことを生かし、第2回校内研究授業に向けて構想を深める。

・教科や単元（題材）を通して付けたい資質・能力を明確にする。

・教科等の指導内容の系統性や関連性を調べる。

・教科等の「見方・考え方」について再確認する。

・教科等の目標と単元（題材）計画等を見通しながら、評価の場面や方法を考える。

・授業と学校教育目標(めざす子ども像)とのつながりを確認する。

・第Ⅲ回教育センター研修までに、2回目校内研究授業の単元（題材）について、該当する「授業づくりのプロセス構想シート[様式3]」（P22～31,70～79 参照）を書ける範囲で記入しておく。（箇条書きでよい）

※ 第Ⅲ回教育センター研修でこのプロセス構想シートを使用する。

研究の様子を説明できるものを教育センターに提出する　　[〆切　7月29日(月)]

・課題研究構想メモ最新版、１学期実施の学習指導案など、研究の様子を説明できるものを教育センターに提出する。

第Ⅲ回教育センター研修（集合）

・同グループの上記資料等をダウンロードし、研修当日に持参する。

・教育センター研修の期日、会場を確認しておく。

・記入した2回目校内研究授業の「授業づくりのプロセス構想シート」（記入済みのもの）を持参する。（グループの人数+指導主事の人数分）

・詳細は、第Ⅲ回教育センター研修実施要項等を参照する。

9月～10月

校内中間発表用の「課題研究レポート（中間発表用）[様式４]」を作成する

・校内授業研究や日常の授業実践を踏まえ、「課題研究レポート（中間発表用）」を作成する。
　※研修に役立つ資料（P92）の「過去の課題研究レポート」を参照。
　※今年度のレポート形式は、枠罫線を省いています。

・資料を作成するにあたり、チームメンバー等から指導・助言を受ける。

様式４（鳥取）　令和○年度　中堅教諭等資質向上研修　課題研究レポート（中間発表用）

教科特横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業ができる

研究主題

１　研究の現状

２　研究の目的

３　研究仮説

４　研究の方法

５　これまでの成果と今後の課題

校内において課題研究中間発表を行う [10/9(水)までに]

・作成した「課題研究レポート（中間発表用）」をもとに、校内で課題研究中間発表を行う。

・中間発表は、チームメンバー、管理職等を含む複数の教員または全教職員の前で行う。

・中間発表の進め方は、学校で創意工夫する。

「課題研究レポート（中間発表用）[様式４]」を教育センターに提出する [最終〆切 10/10(木)]

・「課題研究レポート（中間発表用）[様式4]」を PDF ファイルに変換して、中間発表終了後１週間以内に、教育センターに提出する。

第Ⅳ回教育センター研修（オンライン）

・教育センター研修の期日、オンライン接続の方法を確認しておく。
・課題研究レポート（中間発表用）[様式4]、学習指導案、研究協議等の記録など、課題研究の進捗状況が説明できる電子データ資料を準備する。
・詳細は、第Ⅳ回教育センター研修実施要項等を参照する。

9月～1月

チームメンバー、管理職等の指導・助言のもと、
「学習指導案作成」　「学習指導案審議」　「研究授業」　「研究協議」
を行う（２回目）

・チームメンバー、管理職等の指導・助言のもと、課題研究に基づく学習指導案（密案）を作成する。

・チームメンバーを含む複数教員で、学習指導案審議を行う。

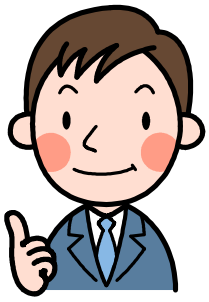
・学習指導案審議をもとに学習指導案を修正する。

・チームメンバー、管理職等を含む複数教員で、研究授業・研究協議を行う。

・学習指導案審議、研究授業、研究協議等の記録を残し、今後の課題研究に生かす。

課題研究、学校を支える OJT の取組について振り返る

・日々の授業が、教科等の見方・考え方を働かせ、教科等が求める資質・能力を育成する授業になっているか、主体的・対話的で深い学びになっているか、課題研究の目標に迫るものになっているか、学校教育目標(めざす子ども像)の実現に向かっているか等について振り返り、授業改善を推進する。



・学校を支える OJT の取組が、若手教員の育成又は校内教職員の資質能力の向上につながっているか振り返り、中堅教諭としての自覚を再確認する。

1月～2月

「課題研究レポート[様式５]」を作成し、教育センターに提出する　[〆切 2/6(木)]

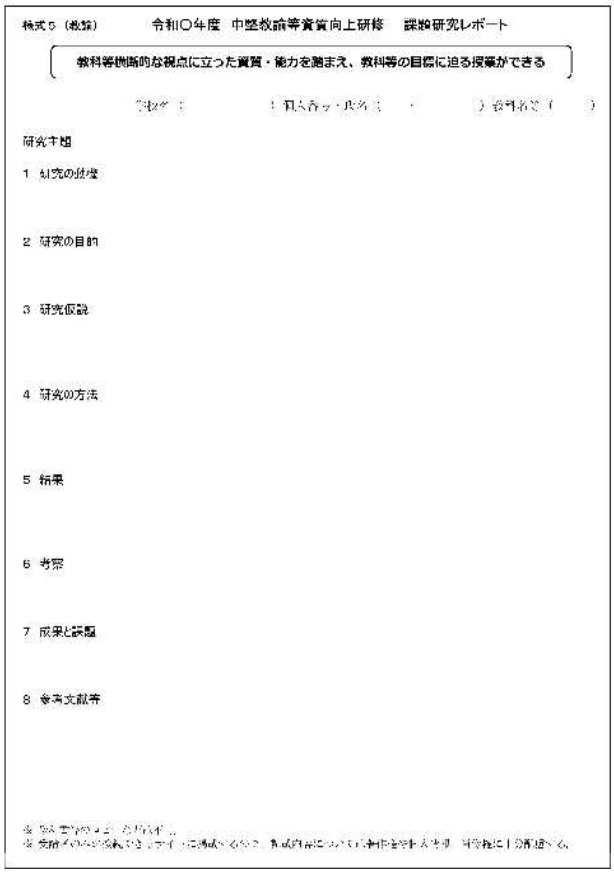
・1年間の課題研究実践について「課題研究レポート[様式5]」を作成する。

・レポートを作成するにあたり、チームメンバー、管理職やミドルリーダーから指導・助言を受ける。

・著作権、個人情報や肖像権等に十分配慮する。

・作成した「課題研究レポート」(PDF ファイル)を2月6日（木）までに、教育センターに提出する。

・「課題研究振り返りシート」(P90)、「資質能力自己評価表」(P14,15)の研修後評価を記入する。


様式５（教諭）　令和○年度　中堅教諭等資質向上研修　課題研究レポート

教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業ができる

研究主題

1　研究の現状

2　研究の目的

3　研究仮説

4　研究の方法

5　結果

6　考察

7　成果と課題

8　参考文献等

校内において課題研究成果発表を行う　[2/21(金)までに]

・作成した「課題研究レポート」をもとに、校内で課題研究成果発表を行う。

・成果発表は、チームメンバー、管理職等を含む複数の教員または全教職員の前で行う。

・成果発表の進め方は、学校で創意工夫する。

2月

第Ⅴ回 教育センター研修（オンライン）

・教育センター研修の期日、時間を確認しておく。

・「課題研究レポート[様式5]」「課題研究振り返りシート」(P90) 及び評価記入済みの「資質能力自己評価表」(P14,15)を準備しておく。

・詳細は、第Ⅴ回教育センター研修実施要項を参照する。

「中堅教諭等資質向上研修 報告書[様式６]」を作成し、教育センターに提出する [〆切２/２７(木)]

・5つの「育成指標における資質能力」について、「資質能力自己評価表」(P14,15)を基に1年間の研修の取組について振り返る。

・計画時に選んだ「重点とする資質能力」の2つについての取組に対する成果、次年度以降の展望及び学校を支える OJT の成果について報告書[様式6]に記入する。

・島根県教職員評価システムにおける年度末面接等を利用し、資質能力について向上したところ、取組の成果や課題、今後への期待などを管理職から伝えてもらう。

・校長面接で受けた指導・助言等をもとに、報告書を作成し、PDF ファイルに変換後、校長に提出する。

・「課題研究レポート（最終報告用）」を完成させ、「学習指導案（密案 1 回分）」と共に、別々の PDF ファイルにして、校長に提出する。

・校長は、「報告書」「課題研究レポート」「学習指導案」を研修情報システム学校Page[報告書提出]からそれぞれ別々に提出する。 （P9,10を参照）